

柏崎刈羽、警報に設定ミス 制御棒トラブルの原因か 原子炉停止巡り

2026/2/5付 | 日本経済新聞 朝刊

原子力規制庁は4日、東京電力柏崎刈羽原子力発電所6号機で発生した制御棒の動作に関するトラブルについて、機器の警報設定に誤りがあったようだと明らかにした。同日開いた原子力規制委員会の定例会合で報告した。6号機は1月21日に再稼働したものの、トラブルの発生を受けて原子炉を再び停止している。

東京電力ホールディングスはこれまで、制御棒の動作をコントロールする「インバーター」という機器に不具合があるとみて調査していた。規制庁によると、インバーターの機能自体に問題はなかった。設備を保護するための警報が本来の設定と異なるタイミングで鳴ってしまう状態だった。

柏崎刈羽6号機は改良型沸騰水型軽水炉（ABWR）という原子炉を採用しており、水圧ではなくモーターで制御棒を動かしている。東電はトラブルを踏まえ、当初2月26日としていた営業運転開始日を遅らせる方針を示している。

規制委の山中伸介委員長は会合後の記者会見で、東電に対して「安全第一で、不具合があれば立ち止まって原因を究明して次に進むという、慎重な姿勢をとってほしい」と述べた。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.